

鞍装古實

兵士常用鞍五

五

内閣文庫		
架	冊	號
三	一	一七
五	二	二七
函		

内閣文庫		
架	冊	號
一	一	一七
〇	二	二七
函		

内閣文庫	
番號	和 17217
冊數	12 ( 5 )
函號	154 174



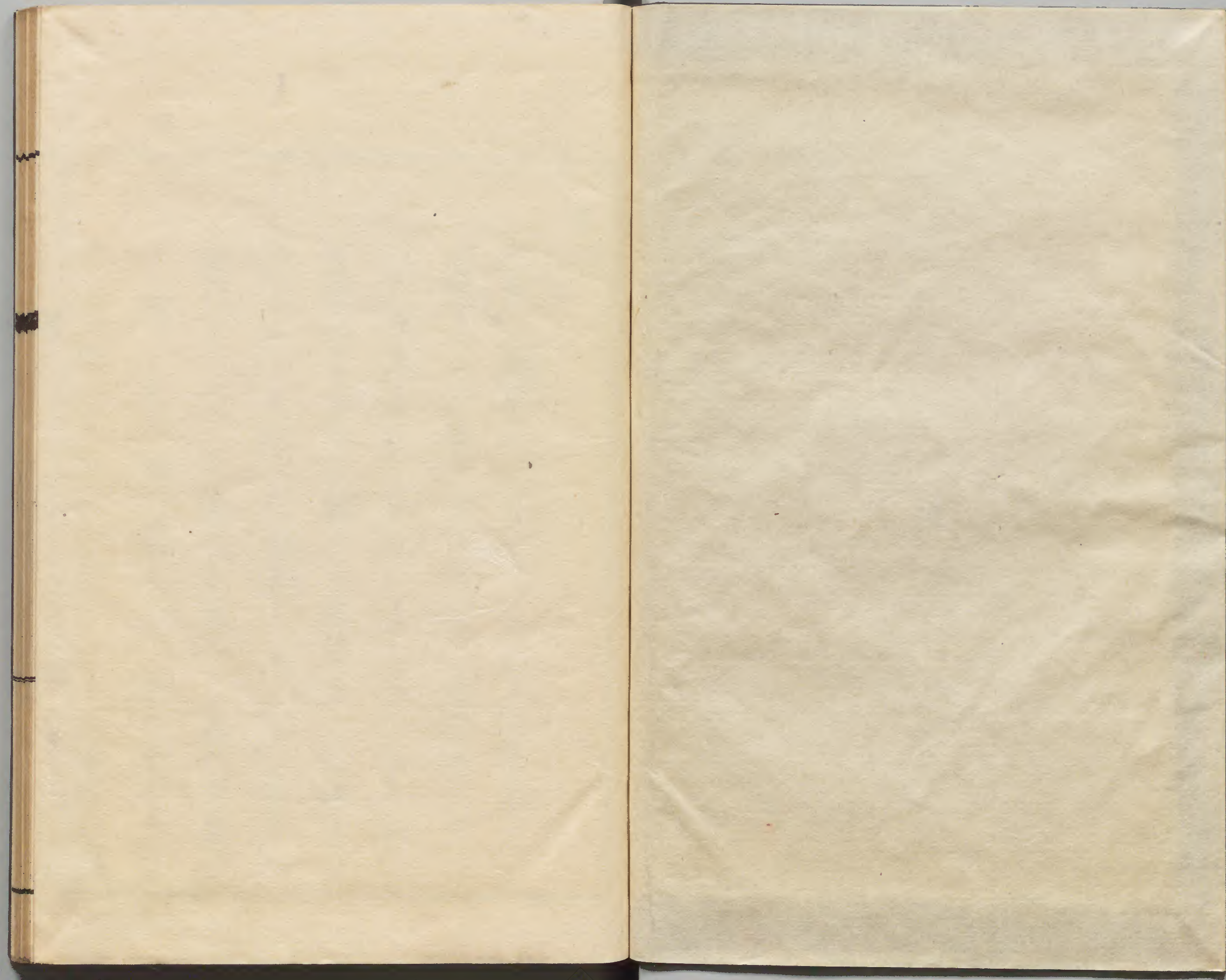
A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

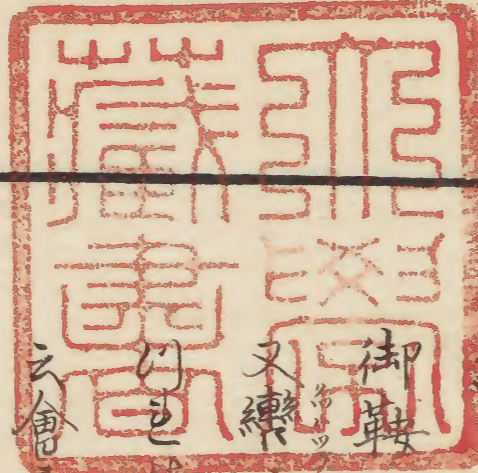


© Kodak, 2007 TM: Kodak





手綱



御鞆

小鞆コツツラと注せし

浅草文庫  
即今乃手綱なり

又轡コツツラ

とも云轡乃字口乃旁の両系車小後ハ

ひし車上より両手の系を以て口を引と

云會意の字みて鑣コツツラのてふはあは以鑣より

連コツツラたる系かきは鑣連コツツラと云一なり孫分を

鑣乃てふかひを違へ且然一と上代小鞆鞆

と云轡と云一物の用を全く今の手綱かき

とも其制化を大小お取一りて以鞆鞆の制

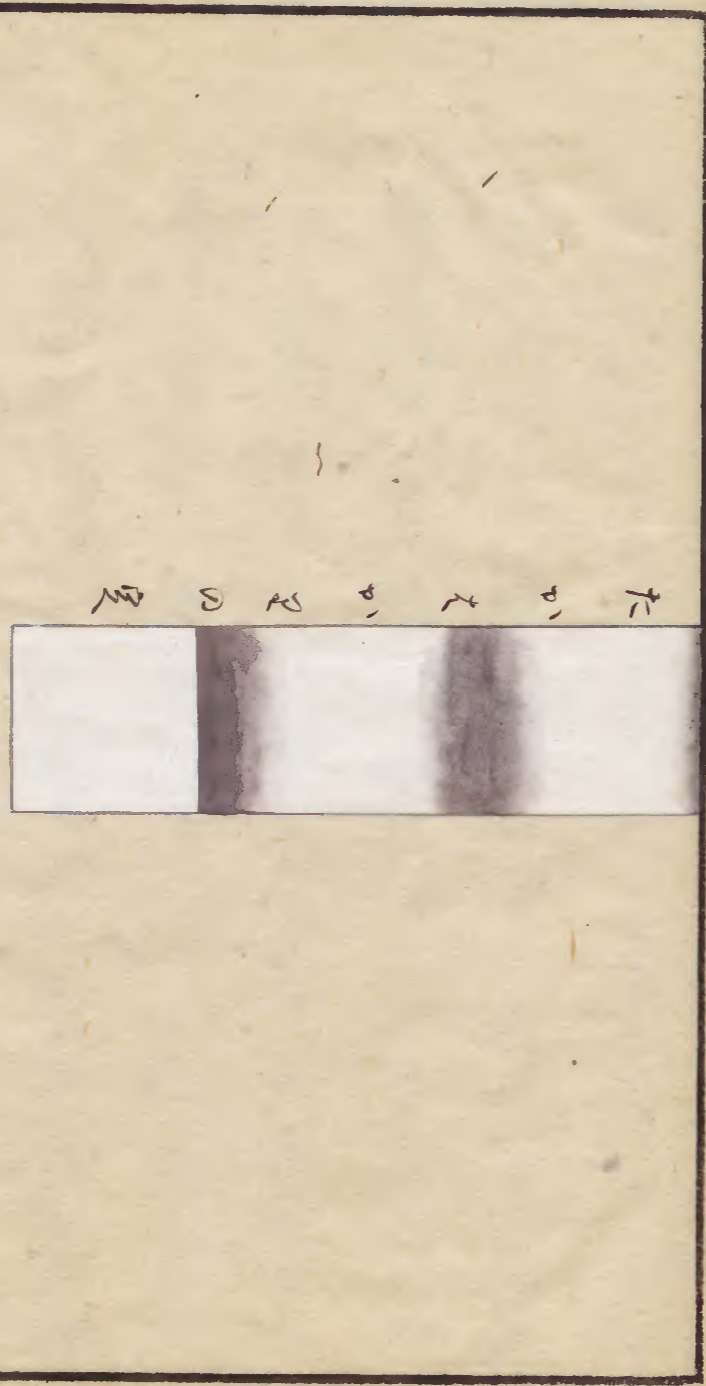
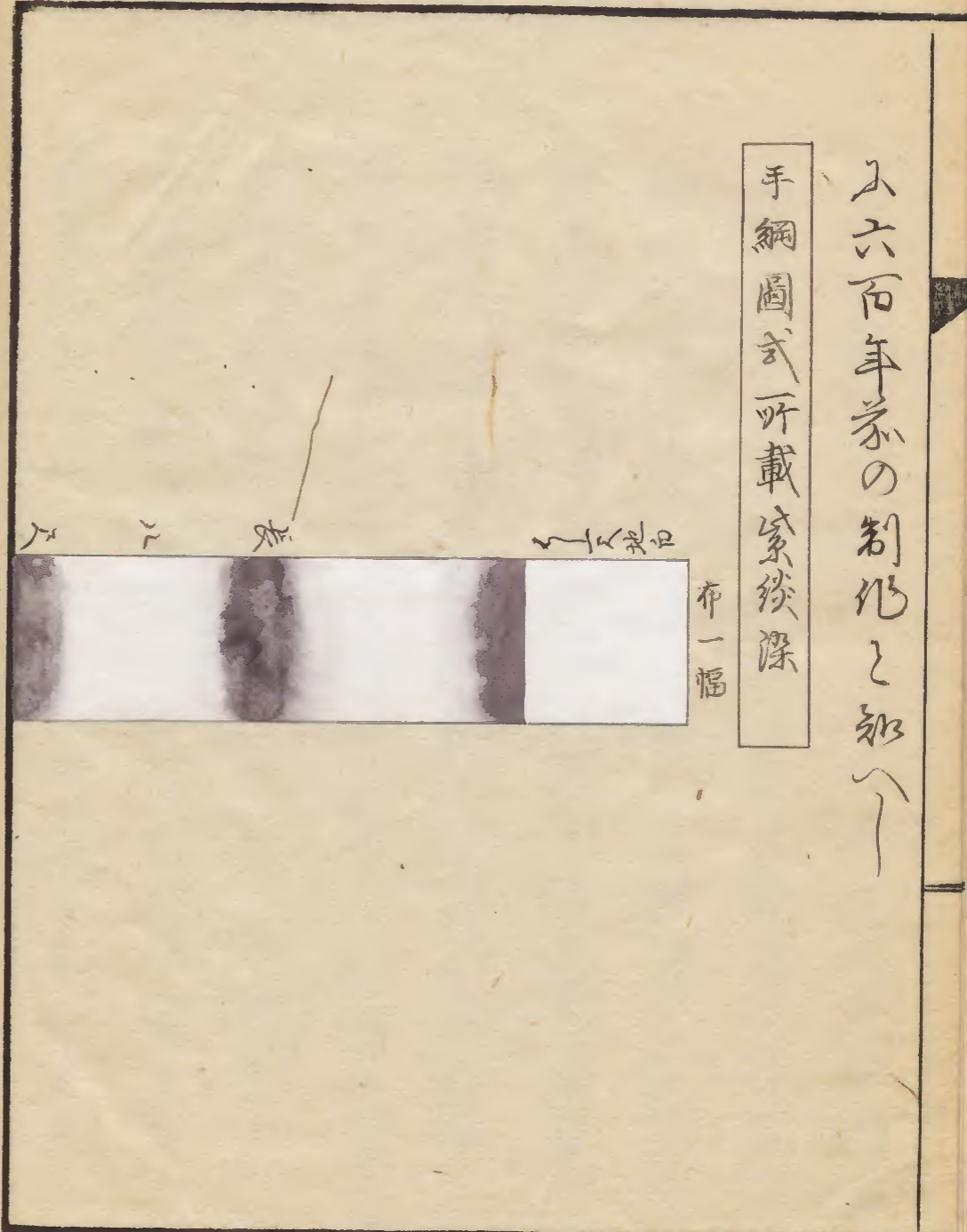
作を和鞍装束云ハ爰ハ畧以拵兵士常用  
乃手綱を麻布一幅を用ひ長さは九尺八寸  
八尺七尺八寸六尺七寸なり深板ハ引兩筋  
膝色は紫の筋白ハ柳色梅志不<sup>レ</sup>足赤根豹文紫  
み深又引手際を濃紫み深と<sup>レ</sup>足深<sup>カチン</sup>褐布筋一  
寸<sup>ミタラ</sup>細筋褐布の<sup>タ</sup>浅黄加賀の志不<sup>レ</sup>足紫引  
兩褐布か<sup>レ</sup>數十種ハ及<sup>レ</sup>ハ今抄の大概を掲  
録<sup>レ</sup>考<sup>レ</sup>院<sup>ニ</sup>海<sup>ニ</sup>

鎌倉將軍家乃手綱ハ伊勢因齋ハ乃常安乃  
手綱圖式ハ宗尊親王<sup>シメダシ</sup>は<sup>シメダシ</sup>後深乃手綱を載た  
<sup>レ</sup>麻布一幅長ハ八尺たか<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>乃定<sup>レ</sup>乃  
方一尺をの<sup>レ</sup>六<sup>レ</sup>尺<sup>レ</sup>深<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>七<sup>レ</sup>尺<sup>レ</sup>の間<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>如  
後深<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>宗尊親王<sup>ト</sup>云<sup>レ</sup>ハ後嵯峨院  
乃皇子建長四年三月十九日征夷大將軍ハ  
補<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>四月二日鎌倉へ下向<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>文  
永三年七月八日上洛<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>ち將軍<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>子  
惟康<sup>レ</sup>ハ讓<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>せ<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>形<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>手綱<sup>レ</sup>既

久六百年前の制化と知へ

手綱圖式所載系綫深

布一幅



京都將軍家乃手綱深款伊勢因齋入道と圖  
式引兩深ハ等持院殿將軍拜賀の後照禪

調進之と申傳也とあり等持院殿との足利  
尊氏將軍を云尊氏乃征夷將軍宣下を曆應  
元年八月十一日かまこと山拜賀の日時の傳  
とて以照禪といハ伊勢伊勢守貞継入道照祿  
友峯乃とあり明德二年八十三歳ふと卒次  
と系圖了りてとてとて曆應元年ハ廿九歳あり  
強は壯年の時より鞍轡の古實を傳へ  
おと知へ一引兩と云子綱ハ佐々木四郎高  
綱乃生喰イケテテを用ひ一中原平盛衰記ふとて

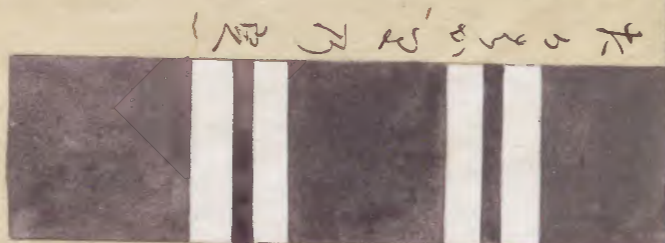
里おかしふと申若筋を二筋ありと引た  
まは引兩筋と云と或家の記ふ云里強と云  
兩ハ龍の字乃普通とて引兩を名とあり引強  
なりと云すハ昇降の雙珍なりなりと云  
るふやおかしきなりと云へ一ありハ  
足利の一派を二引兩新田乃一派を一引兩  
なりと云ハ強心泊なりと云二引引  
み依く兩と云へ一ハ一引引と云ハ一  
引兩と云へ

手綱圖式所載引兩手綱

布一幅



白地了紺  
二筋の三知子  
付しむ



馬鞍書小二引兩ハ足利將軍家乃御紋か  
ハ用中一々形うと云也

京都將軍家手綱

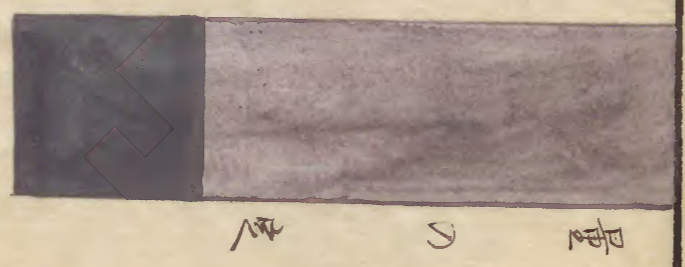
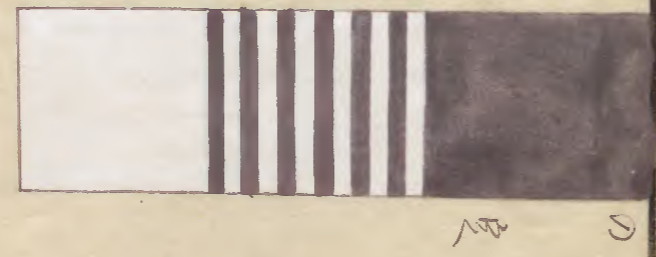
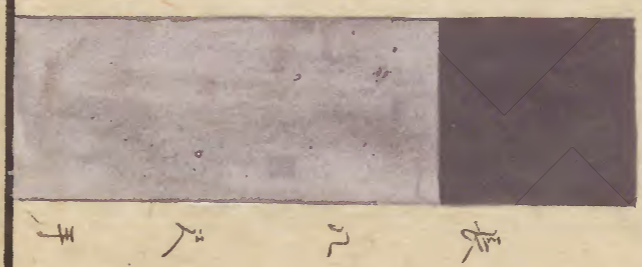
布一幅

一尺白



一尺紫

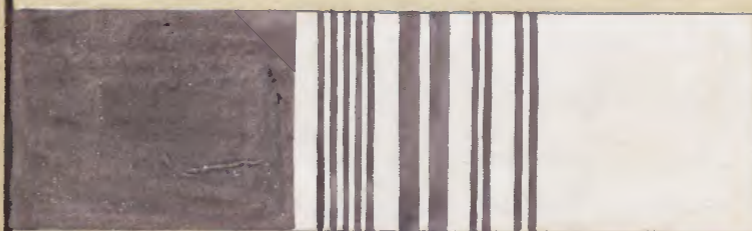
布一幅



以手綱犬追物  
 射手方圖書  
 所方御所極手綱  
 とあり所方御所極とハ將軍家若君云



京都將軍家手綱

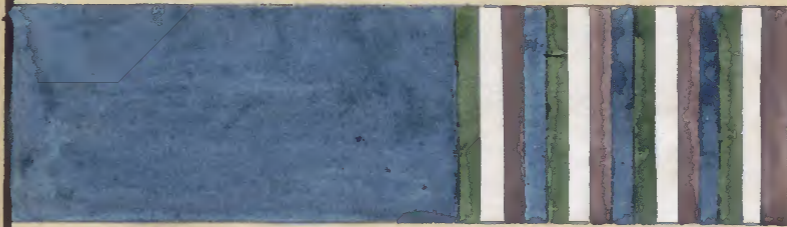


此は伊勢因齋手綱圖式之云々

又引手豹文手綱

布一幅

一尺四寸



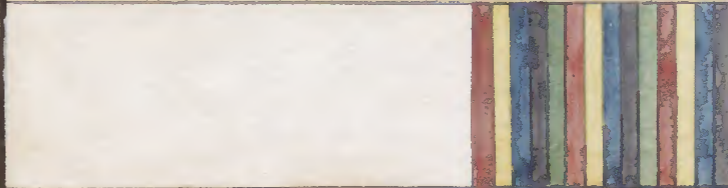
總長何寸

一尺四寸



同上

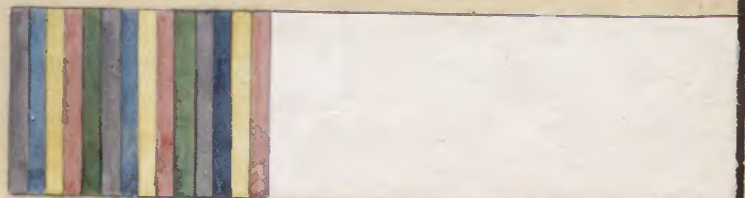
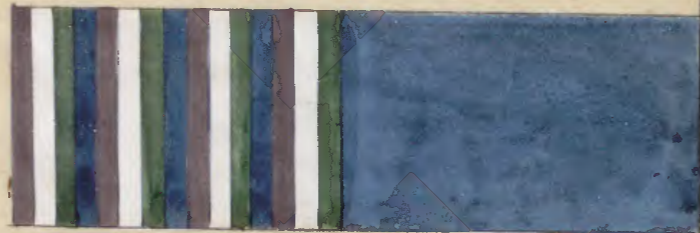
一尺四寸



同上

豹文とハ伊勢貞順乃記小梅崩木る里枇杷

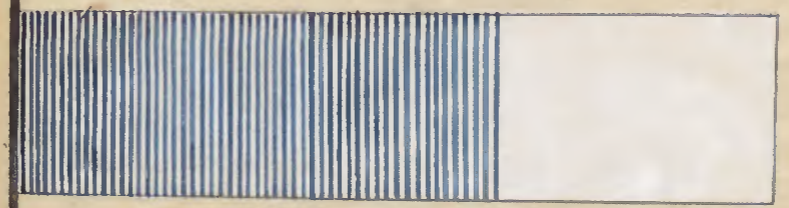
緊ふく色えさるる中ふとあふ貞順ハ六郎



左衛門尉貞久乃男ふく光源院將軍家ふ車  
ふくく九列へ御使ふ下向く彼まふく卒を  
と系圖ふくくは天文永祿年間の人  
御對面記ふ豹文ハ梅蒔木る更把葉ふく  
色えくくやふく二色之色えくくやうに深  
たふくくからふくこれ色えくく  
豹文ふくハ形くくは是ふく京都將軍  
家の時不謂豹文ハ閑えくく更本多忠憲豹文  
書はふく梅ハ薄赤さ色ふ黄の交くく色

を云蒔木の木乃若芽の色ふ似ふくたる色  
る更ハ紺色枇杷ハ黄ふ少く白く乃交くく  
る色を云ふやとくくたる二色ハ三色四色  
ふくくは楸ハ青赤乃二色をたふく遠ハ  
了深くく淡ハ地乃白と合せくく之色ふる  
形くは茅ハ豹文ふあふくハ形く豹文ハ平  
日ハ禁制のく貞順の記了くハ形く然  
あふ鎌倉の書子平文又ハ評文ふとある  
た是とおるくハ

浅黄筋手綱




上の犬追物記ふろえ大  
下右手綱図式を載たは筋内を以て

軍陣手綱

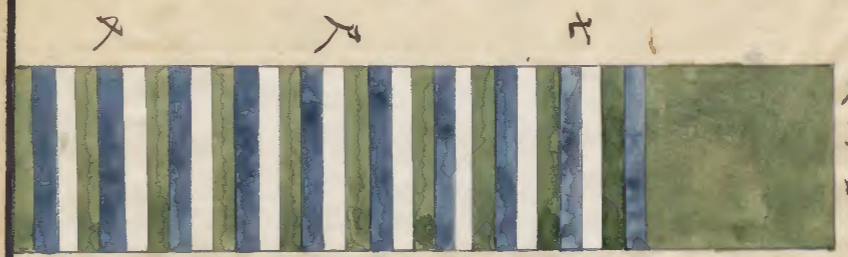
軍陣入用入子綱七尺八寸と馬故實  
 弓法秘書大館尚氏記等云云正あるは  
 鞍乃前輪かけ手二川並不との長さ入  
 とる形つと云云 軍陣 又ハ前輪かけ諸手  
 せ入くあねくあるへくいらかきさ  
 みよき不とよまへーと云云 小笠原海 於て  
 犬追物入用入子手綱とおかしくとる形つ  
 あはば犬追物ゆ馬よて敵と馳駆し

軍とるを学ふてめの意形述いふへ  
色ハ將軍家又ハ大名礼ハ折深梅志ありも  
將軍家系ハ筋白ハ等ハ凡人の用ふる子綱  
あゝいと今川了後の大巻紙くききり  
軍陣の子綱ハ布一幅を二川小折く又それ  
を二川小おまハまへくは折小形多形  
けく端よりうりへ内へとおまハ自然とま  
中乃折の如へ左右乃端より小形く終く  
二川小折へくあま上古より習ひ形く又

六川小折く中より二川小折更左の方ハ右  
へまき右乃方も右へおけを  かく形如  
く巻く形くあまは馬とりハ文字形くと  
かや即左右馬寮乃古實形くと或縉紳家の  
有識の語らまへとあり又辺江の武佐寺の  
僧乃僧くくく同くとあり右乃如く六川  
またくむき辺江源氏乃習ひ形くと楚然ハ  
江南六角家乃古子綱くかた乃如く巻た  
更今も稀く存するをうくと云

手綱圖式所載軍陣手綱

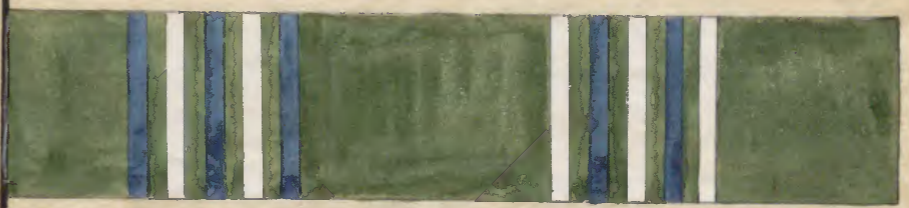
布一幅



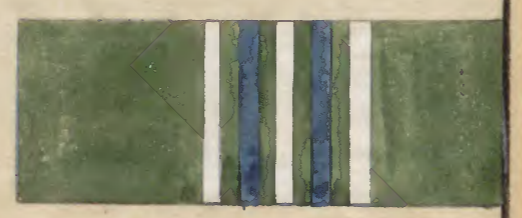
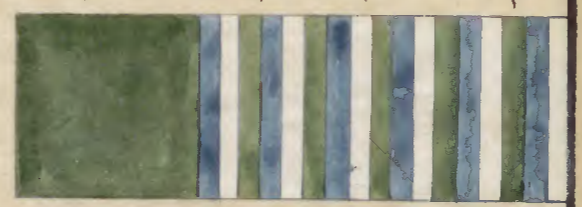
同上



同上



寸 寸 寸 寸



此法量ふ引手際一尺若こ中又尺又寸を折ふ深しを折深手綱と云折深ふ志ありしと折あらずと云

豹文手綱



今按ふ  
是ハ色繪  
ナリ



あれハ  
豹文の正説  
ナリ

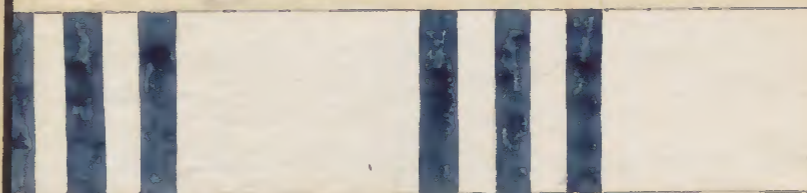
上為京極大草紙小々々々式あり下ハ伊勢  
因齋の説あり





取深手綱

布一幅



一寸八分

一尺二寸

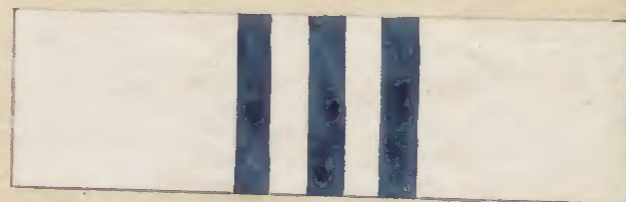
布一幅



筋一寸

上ハ子綱腹帯深拵記

小見之ヲ取深ナリ



下ハ伊勢貞泰ノ

深一式ナリ



一寸斑手綱

曾我物語吳本小

付手綱乃衣あり

孫倉澳武士常相

とせりとあふ

あは上賢抄みまきり式なり上賢とハ上  
原豊前守賢家を文永正九年七月小記せり  
書なり但此深敷此頃造景せり小ハあり以

尺障泥

羅皮障泥又位以上方著るとを聴きと弾ひ正  
式しくその依より又位以下乃兵士毛皮障泥を  
ささひてかゝ仕鏡扱あわくるく。かかゝ以もつとと議  
一統いふふととるる。又鏡摺あは播磨皮はののままふふ  
又又をを云云とと形かうう播磨皮はとと云云ハ馬皮まふふととままふふ  
作しててハ馬皮ま一枚いをを二にひひ切きり裏うらら伏輪ふくく  
由よ形かうう作しふふとと云云即兵士常用の具ぐふふとと尺  
障泥しとと云云伊勢駿河も貞雅乃記し見みええとと

又此乃尺障泥と名付たる理を考ふるに大  
館尚氏記に馬尺杖乃と長と尺とを尺とを  
新ぬりし色は尺とある馬を尺と云とあり  
依るに尺乃革を二寸子裁るゆゑに障泥  
を尺障泥と云と同の諸鞍日記に尺障泥を  
馬皮黒くぬると云に尺とある馬皮を尺  
と知へし堅固兵士乃具ふるを應安四年閏  
二月新院北野御幸の日供奉乃大納言尺障  
泥をせしむるに後深心院閏日記に云々

又此世乃頃を天下をへし武家様をむ孫と  
賞玩せし時世極ふる古實に合へしとハ  
云へるに以建保元年の明月記に御隨身の  
頼武の御馬を御りし蔭繪鞍に尺障泥と  
たふしよし正安二年十一月御幸の供奉に  
之條大納言實躬卿乃大和鞍に尺障泥と  
之ハ辟と云へし尺障泥乃造り様伊勢  
因幡の家と傳へしも乃あり六七百年前の  
古式と云へし左の圖に

尺障泥圖

葉長裾ノ  
大半

葉ノ體ノ  
大半

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

表草摠葉ヲ煎テ塗ルナリ

長さ裾乃十少餘

檀葉二百枚ホシテ水ニ升ヲ入テ  
煎テ一升トス是一度ノ分量ニ  
凡五六度モヌルヘシ

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

信充云け書入古傳授を請せふ人の容易  
 小解一得たらん為る謎乃如く記せし  
 たとへハ長二尺を十一分少餘とかせハ  
 一分ハ一寸八分一釐余形り依る裾乃廣  
 一尺八寸一分八釐余と糸へ一尺八寸  
 一分八釐余を十二分少餘とかせ及肩の  
 廣一尺八寸一分八釐余と糸へ一葉乃長  
 さハ九寸九分余廣ハ四寸八分余と云と  
 形り以上古乃人の用意あり

